

令和8年度第1回八幡市環境審議会 議事録

1. 日時 令和8年6月1日（月） 午後2時～3時30分

2. 場所 八幡市役所本庁舎 会議室5-2（5階）

3. 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 委嘱状交付（委員交代による）
- (3) 市長挨拶
- (4) 第3次八幡市環境基本計画の中間見直しに係る諮問について
- (5) 議 事
 - ①第3次八幡市環境基本計画の中間見直しについて
 - ②第4次八幡市一般廃棄物処理基本計画策定に向けた進捗について
- (3) その他
- (4) 閉 会

4. 配布資料

- (1) 資料
 - ①会議次第
 - ②座席表
 - ③八幡市環境審議会委員名簿
 - ④第3次八幡市環境基本計画の中間見直しについて（諮問書の写し）
- (2) 議題資料
 - ①第3次八幡市環境基本計画の中間見直しについて【資料1】
 - ②第六次環境基本計画の概要（環境省、令和6年策定）【参考資料①】
 - ③京都府環境基本計画の全体構成（第3次、令和7年改定）【参考資料②】
 - ④アンケート調査実施報告書（市民用）【資料2-1】
 - ⑤アンケート調査実施報告書（事業者用）【資料2-2】
 - ⑥第3次八幡市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について【資料2-3】

5. 参加者（敬称略）

- (1) 委員
 - ・立命館大学名誉教授 小幡 範雄【会長】
 - ・滋賀県立大学名誉教授 金谷 健【副会長】
 - ・大阪学院大学国際学部教授 三輪 信哉
 - ・京都大学フィールド科学教育研究センター教授 徳地 直子
 - ・事業関係者（商工） 澤田 信幸
 - ・事業関係者（農業） 北川 小百合
 - ・市自治連合会 大野 孝寿
 - ・一般市民 西尾 厚子

- | | |
|---------------------|-------|
| ・一般市民 | 岡本 幸子 |
| ・京都府山城北保健所技術次長兼環境課長 | 中西 理恵 |
| ・八幡市副市長 | 能勢 重人 |

(2) 事務局

建設産業部参与・産業振興室長 山口 将司
市民生活部環境事務所長 小島 隆司
市民生活部環境業務課長 岡崎 朋二、環境業務課長補佐 吉田 雅輝
建設産業部産業振興室環境政策課長 辻 博之
環境政策課総括主任 宇都出 亜裕子、環境政策課主事 上田 剛平
株式会社環境技術研究所 京滋営業所 2名

(3) その他

傍聴者 なし

6. 会議内容

【開 会】

省 略

【委嘱状の交付】

省 略

【市長挨拶】

省 略

【諮 問】

省 略

【出席者紹介】

省 略

【議事①】

(小幡会長)

それでは規則に基づき議事の進行をさせていただきます。

はじめに会議次第に従いまして「議事（1）第3次八幡市環境基本計画の中間見直しについて」事務局から説明願います。

(事務局)

～説明～

(小幡会長)

説明ありがとうございます。

ただいま、八幡市の環境基本計画の中間見直しにつきまして、現状の重点取組の実施状況と基本方針等の進捗状況、中間見直しにおける見直しの項目（案）の説明がありました。

この点につきまして、質問や意見等がありましたらお願いいたします。

(委員)

国の環境基本計画、府の環境基本計画とも見直しがされ、ウェルビーイングという

言葉が新しく追加されています。

「ウェルビーイング」とは「個人の幸せを目指して」みたいなイメージがあるようでして、そういうことが計画の中に書き込まれていましたので、その点で一つお聞きしたいことがあります。

八幡市さんにおかれましては、桜の名所がいくつかありますので、今、桜が特に被害を被っているクビアカツヤカミキリが、山城地域においても増えつつあるという状況で、早期に対策を打たないと、定着すれば桜が全滅してしまうかもしれません。

また、山城地域においては梅の産地もあり、八幡市だけの問題ではなく、山城地域全体に波及する可能性がありますので、「個人の幸せ」という観点から一つ、桜の名所を八幡市として守るという意図を込めて、クビアカツヤカミキリの早期発見、早期防除に力を注いでいただきたいと思います。

昨年度に、八幡市内でクビアカツヤカミキリの被害が見つかったということもありますので、今年度保健所では、山城北の管内で講習会の開催などをおこなって、早期発見を市民さんに訴えていきたいと思っておりますので、一緒にやっていきたいと思っております。

(小幡会長)

ありがとうございます。

クビアカツヤカミキリが桜などをダメにするということで、学習会などされているということですが、そういったことを施策 11 の環境教育・環境学習の推進などに追加できないかという意見です。そういったことをどうするのか、事務局の考えがあればお願いします。また、ウェルビーイングについても触れていただいていますので、その点についても考えがあればお願いします。

(事務局)

ウェルビーイングにつきまして、確かに国では「高い生活の質」、京都府では「府民が幸せを実感できる状態」という意味で明記されております。本市計画において明記はしていませんが、本市計画で定めている望ましい環境像は、計画の 38 ページに記載しているとおおり、「若者から高齢者までのあらゆる世代、市民や事業者をはじめとした様々な主体が連携し、きれいな水と豊かなみどりに恵まれた人と自然が共生しているまち、環境・経済・社会の統合的向上による持続可能なまち」の意味を込めており、これはウェルビーイングの考え方に沿うものであると考えております。

クビアカツヤカミキリの件につきましては、先日、本市にも京都府さんからご案内いただいておりますので、撲滅チームの結成などもお聞きしているところでございます。本市では、計画の 62 ページ、基本方針 3 「人と自然が共生するまち」、施策 7 「生物多様性の保全」の「市の取組」の表の中で、外来種対策の推進に取り組むこととしており、クビアカツヤカミキリをはじめとした外来種対策について、京都府さんや関係機関と連携しながら、情報収集、市民への啓発、駆除対策への協力を行ってまいりたいと考えておまして、クビアカツヤカミキリ以外にも外来生物がいることから明記はしていませんが、ぜひそのような取り組みには協力させていただきたいと考えております。

(委員)

ありがとうございます。是非よろしくお願ひいたします。

(小幡会長)

ありがとうございます。他に質問等がありますか。

他に質問等はないということで、事務局から説明のあった通りで中間見直しを進めてもらうということですのでよろしくお願いします。

【議事②】

(小幡会長)

次に「議事(2)第4次八幡市一般廃棄物処理基本計画策定に向けた進捗について」のアンケート調査実施報告について、事務局から説明願います。

(事務局)

～説明～

(小幡会長)

事務局説明ありがとうございます。

アンケートの結果について、前回も速報値を説明していただきましたが、今回すべてまとめたものを説明いただきました。

それでは質問や意見などがありますか。

事業者版の結果は、回答が60件という少ない中での分析となっていますので、どれだけ正確な数値となっているかはわかりませんが、その辺りでも何かあれば質問などお願いします。

(委員)

事業者版ということで、これを見ていると母数が少ないのでこれによって分析されるのはちょっとどうかと思うところもありますが、回答内容は業種によって全然変わってくるんだろうなというのはわかりました。

特に製造業に関しては、その業界自体が環境に配慮しないと商売が成立しないということが多くありまして、当然大手の企業と小規模事業者ではまた変わってくると思いますが、八幡市では親会社から仕事を請け負っている事業者が多く、仕事を請け負うにしても環境に配慮していないと仕事がもらえないというのが製造業の実態となっております。こういった状況から、製造業は全体的に当然高くなると思いますし、特に製品が海外に行く事業者はもっと厳しい条件になりますので、製造業が高くなっているのは正しいと思います。ただ、せめて1業種あたり2桁以上の回答がないとアンケートで統計を取るには量が少なすぎると思いますし、業種だけじゃなく規模の大小によって取り組み方が全然変わってくると思うので、そういった分析も必要なのかなというのが感想です。

(小幡会長)

ありがとうございます。これは仕方がないとは思いますが、普段事業者向けにアンケートをする場合は、回収率はどんな結果になりますか。

(事務局)

アンケート自体が今回初めて実施したものですので、他部署の実施結果と比較させていただきますと、他部署で実施したものの回答率はもう少し低い結果であったことから、30%回収できたことは、回収率としては高いものと考えておりますが、送付件数自体が限られていたことから、業種によっては0件のところもございます。ただ、

八幡市で比較的多い製造業や卸売業の業種の回答はある程度得られたと考えております。

(小幡会長)

このアンケートの後は、ヒアリングとかはされる予定はありますか。

(事務局)

現在はヒアリング等の予定はございません。

(小幡会長)

わかりました。他ありましたらよろしく申し上げます。

(委員)

資料2-1 アンケート調査実施報告書(市民版) 11 ページの地域回収についてのグラフを見ると、特に若年層は上のグラフ「地域の回収を知っているか」と下のグラフ「取り組みを活用しているか」が同じような割合に見られますが、分母が一緒だとすると地域回収を知っている人は取り組みを活用していると読み取れますので、そうであれば地域回収を如何にしてみんなに知ってもらおうかということに取り組みれば何かしら改善ができるのではと思いました。

地域回収というのは、町内会や自治会、PTA と書いてありますが、そちらが発信する情報だけに頼っていると、知らない人が結構いるのかなと思ったのですが、八幡市がこの情報を発信されているということはありますか。

(小幡会長)

ありがとうございます。事務局よろしく申し上げます。

(事務局)

地域回収はそれぞれの団体各自で行っているものであり、市として事前に把握はしておりませんので、市の広報媒体での発信はおこなっておりません。市で古紙回収等の実施に対して補助金を交付しておりますので、実施後では報告を受けますが、現状は事前の把握はしておりません。

委員ご指摘のとおり、地域回収を知っている人が実際に活用されている人なのかなとは考えられますが、自治会等の加入率や自治会活動への参加などの影響が若年層に特に顕著にあるのかなと考えられますので、そういった情報発信というのも今後検討していきたいと考えております。

(小幡会長)

ありがとうございます。他にありますでしょうか。

(委員)

アンケート調査実施報告書(事業者版)の13ページにごみ減量や資源化についての情報収集方法という項目がありますが、八幡市さんとしては、市民向けにされている広報紙などのように、事業者向けにそういったことはされているのでしょうか。

(事務局)

事業者に対する啓発ということですが、産業廃棄物は事業者自身で処理されているという状態でもありますので、市からどのように出すかなどの啓発はしておりません。

(委員)

先ほどもお話があったように、市民版のアンケートでは知っていることは取り組

んでいるという傾向が見られますので、事業者についても、情報をしっかり伝えれば取り組んでくださると思いますので、ぜひ、事業者としてどんな処理の仕方があるのかということ発信していただければと思います。

(小幡会長)

ありがとうございます。澤田委員、何か商工会でやられていることとかはありますでしょうか。

(委員)

商工会でも特にはしていません。

(小幡会長)

特にはないということですので、今後検討していただくということでよろしくお願ひします。

他に何かありますでしょうか。

(金谷副会長)

アンケート調査実施報告書（市民版）8ページ、9ページあたりですが、「2-9 資源物の排出方法について」のところが、この後のリサイクル率や1人1日当たりのごみ排出量の目標を設定するのに、ある程度使えるのかなと思いました。

例えば、排出方法の選択肢に関して、缶やペットボトルは「資源物として市の回収に排出」という選択肢があり、他にも「地域の回収に排出」や「スーパー等の店頭回収に排出」とか「燃やさないごみとして排出」という選択肢があるので、今後、目標を考える時に目標値をどのくらい上げられるのかということの検討に役立つものになると思います。

一方で、段ボールに関しては、「資源物として市の回収に排出」の選択肢がなかったことや、紙や新聞紙といった古紙が質問項目になかったのは残念です。

リサイクル率を考えていくときに、重量で率を算出するので、古紙は重量が大きく、新聞を取る人が年々減ってきてはいるものの他の資源物と比べたら多いです。なかなか行政で把握はしにくいとは思いますが、スーパーなどで古紙の回収ボックスなどがあったりするわけですね。ですので、古紙関係がどのように排出されているかや、段ボールが「資源物として市の回収に排出」されている量が分からないということがちょっと気になりました。

そこで、2つ聞きたいのですが、排出方法の質問項目に段ボール以外の古紙関係、例えば新聞などを入れなかった理由は何なのかということと、段ボールの選択肢の中で「資源物として市の回収に排出」がないのはなぜかを教えてください。

(小幡会長)

ありがとうございます。ということで、古紙に関してはどこの市町村も頑張っって大きな目標を掲げられていますが、その項目に関してと、段ボールの項目で市の回収が含まれていないことについて、事務局の説明をお願いします。

(事務局)

まず、段ボール以外の古紙の質問項目につきましては、集計結果として掲載しているのは段ボールのみを標記しておりますが、質問項目には、雑誌、段ボール、紙パック、新聞紙、雑紙という形で、紙に関するものとして5種類を挙げております。なお、集計結果につきましては、紙類のアンケート結果がある程度同じ傾向であったため、

段ボールのみを記載しております。

古紙関係の選択肢に「資源物として市の回収に排出」がない理由につきましては、自治会等で地域回収されている活動に対し補助金を出していることから、そちらを圧迫しないよう現状は古紙関係を資源物として市で回収していないため、選択肢から外しております。

(小幡会長)

ありがとうございます。他に何かありますでしょうか。

ご意見はないようですね。それでは、次に、第3次八幡市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について、事務局から説明願います。

(事務局)

～説明～

※資料2-3「第3次八幡市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について」の訂正について説明。

<訂正箇所>

「2.基本目標」の「ごみ排出量一人一日当たり」「令和8年度目標値」

誤：800.0g 正：780.0g

(小幡会長)

事務局説明ありがとうございます。ただいま、第3次八幡市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について説明いただきました。この内容について、質問や意見などはありませんか。

(金谷副会長)

資料2-3の基本目標について、まず、1人1日あたりのごみ排出量ですが、令和8年度の目標値を800gと挙げられてるんですけども、令和6年度で既に711gになっており、この目標をこれ以上高くする必要はないのかなというふうに思っており、令和6年度の現状維持ということでもそれほど悪くはないと思います。ですが、目標として、現状値よりも少し下げた方がいいということであれば、例えば700gぐらいにするとか、或いは、もう一つの考え方としては、令和6年度の京都府内の自治体や類似自治体など、どちらでもいいと思うんですけども、その平均的なところを確認して、そちらと比べてどうかという値でもいいのではと思います。

次に、リサイクル率についてですが、先ほどご説明にあったことを踏まえると、環境省の考え方だと、八幡市のリサイクル率には、地域回収や店頭回収はカウントされないこととなります。だから、それは八幡市が回収をしないというのが一つの考え方なので、それを前提とすると、人口規模の類似自治体よりも、そのような形でリサイクル率を出している類似自治体が一体どのくらいなのかという、そこで比べないと無理に無理を重ねるような形になると思います。

なので、何を出発点にするのかということをはっきりさせないと、ちょっとアンバランスになる気がします。

もう1つの考え方としては、店頭回収や地域回収の情報を収集して、それを八幡市として行政回収はしないけれども、店頭回収や地域回収に対して、今までよりも手厚く支援をする、或いは、市民に対して情報提供するような形で数値を上げていくとい

う考え方は十分できると思います。

その場合は、環境省によるリサイクル率の定義は参考程度に考えて、八幡市としては、広い意味の地域としてのリサイクル率、行政ではなく、地域や自治会等による回収で増えるリサイクル率、それを八幡市としては支援していくという目標を立て、その場合の目標値となるリサイクル率の設定の仕方はあり得ると思います。

だから、リサイクル率の目標設定について、もう一度考え方を整理して、実現可能な目標にしたほうがいいのではと思います。その場合に、35%という目標値は必ずしもこだわらなくていいんじゃないかなと思います。

あとは、リサイクル率を考えるとときには、1人1日当たりのごみ排出量とリサイクル率を掛け算した数値を活用するとわかりやすいと思います。

例えば、平成26年度で言うと1人1日あたりのリサイクル量は121gとなります。令和8年度目標値では280g、令和6年度の実績値では96gとなります。

だから、1人1日あたりの量で言うと、それくらいの量がリサイクルされていることになり、現状の目標では、毎日1人あたりで280gリサイクルに回すということになります。それが果たして達成可能な数値なのかというのは、例えば、可能であればごみ組成を調べればわかると思います。紙を除いた形で目標値を達成しようとしても、多分不可能であることがすぐ出るのではないかと思います。

まとめると、定義として、環境省が言うような行政回収だけを考えたリサイクル率でこれを決定するのかどうか、その場合は、紙の回収を行政がしないという今の八幡市のやり方とは、明らかに矛盾するんじゃないかというのが意見です。

そうするとおそらく現場の人から聞いたら、達成が困難なことじゃないかということになると思います。

それに対して、民間や店頭回収も含めた形で、定義を変えて拡大して考えていくのはどうか、その場合は、目標値がどの程度であれば達成できるか、店頭回収や地域回収をちゃんと把握できるのか、その取り組みに対する行政の支援策はどのようなものがあるのかなど、そういうところを考えていく必要があると思います。

(小幡会長)

ありがとうございます。

第3次一般廃棄物処理基本計画の進捗状況確認ということですが、リサイクル率の考え方ということで、市の現在の目標値に対して、紙類を市が回収していないという現状を踏まえて、基本的なところも考え直さなければいけない、考える必要があるということですがけれども、今事務局ではどのように考えられていますでしょうか。また、今後どのようなスケジュールで進めていく予定でしょうか。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

こちらでも、目標値が高い状態ではあるので、人口が減少していく中でもなかなかリサイクル率が上がらない原因として、我々としても分析はしておりますが、今回の紙関係のご意見をいただいて、本当にありがたいと思っています。

こちらとしても、今後どうしていくかというのを、先ほどいただいたご意見の件も踏まえまして、引き続き検討をしてみたいと考えております。

スケジュールにつきましても、今のところ、まだ目標値の検討まで行きついていな

い状況ですが、委員ご指摘のとおり、数値的にはちょっと高くなっており、周辺自治体のリサイクル率などの調査が必要であると考えておりましたが、ご意見のとおり、本市と同じような環境の自治体での調査が必要かどうかということも考えていきたいなと思っております。

(小幡会長)

ありがとうございます。これからどのようにしていくか考えていくということで、よろしくをお願いします。

他に何かありますでしょうか。

(委員)

世の中全体にサーキュラーエコノミーという考え方が広まりつつあり、また、広げていかなければならないということですが、この一般廃棄物処理基本計画というのは、「市役所が回収する」というところがメインになっていますけれど、市内を見回して、例えば、各家が古着をリサイクルできる場所に持っていくなど、民間のルートに流していくようなことをすることによって、目標値である1人1日あたりのごみ排出量780gが減っていくこともあると思いますが、市として、そのようなサーキュラーエコノミーの取り組みなどに関して、お考えがありましたらお聞かせいただきたいと思います。

(小幡会長)

ありがとうございます。

ということで、八幡市で、サーキュラーエコノミーの取り組みにより、全体削減することや、新しいものを作るなどという動きはありますか。

(事務局)

現状、新しい何かを作るという計画は特にはありませんが、委員ご認識のとおり、市内にはいくつかあるリユースショップの中で、市での調査はしておりませんが、そういうところにお持ち込みいただいている方や、或いは、そういった不用であってもまだ使用できるものは、何らかの形で譲り渡しとか、そういうことはされているということはあり得るとは思われます。

それがどこまで活用されているかは、こちらとしても把握できてないんですけど、委員ご認識のとおり、こういうことで、市民の方でそういう環境意識を持たれている方もいらっしゃるということは聞いております。

(小幡会長)

ありがとうございます。ということで、この資料2-3に記載の基本方針2「廃棄物の減量と資源の循環」において、実際にどんな取り組みができるかなど、また検討していきたいというふうに思っております。他に何かありますでしょうか。

ご意見はないようですね。それでは、以上で、本日予定しておりました議事は皆さまのご協力によりすべて終わることができました。事務局にお返しいたします。

【その他】

・次回環境審議会の案内

【閉 会】